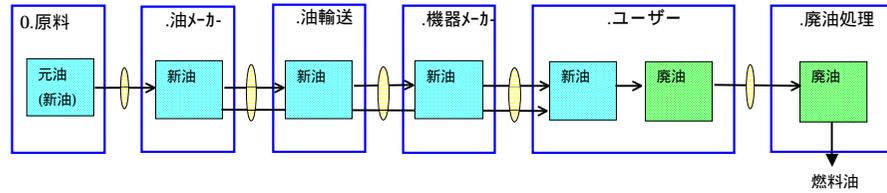


## 電気絶縁油のライフサイクルとP C B混入の可能性

【微量P C B混入の可能性】  
 : 要因となる可能性が高い、あるいは  
 要因となる可能性がある  
 × : 要因とはなり得ない

### A期間：新油のみ使用期間 ~1954年

検出事例：新油 0台

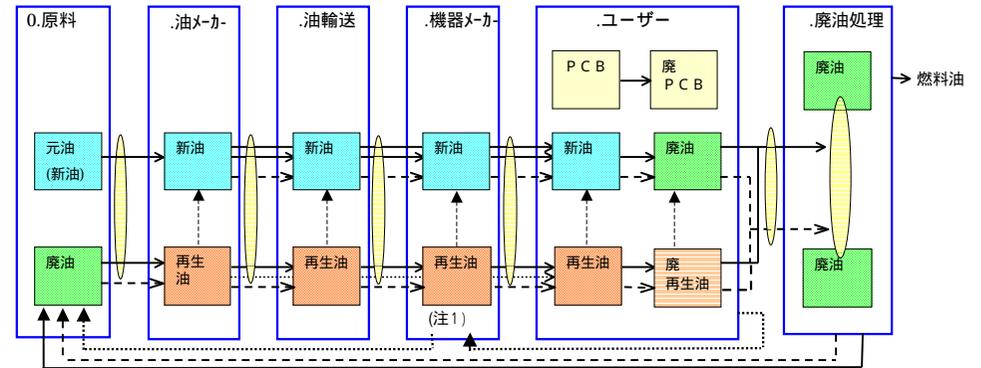


#### 【コメント】

1. 業界内では検出事例があることから、新油そのもの もしくは ユーザーにおける保守・メンテナンス時の使用油にP C Bが混入していた可能性あり。( )
2. 1954年以前に一部の再生油メーカーでは再生油を生産していたことから、廃油処理の過程において、既にこの時期にリサイクル油が再生油メーカーに還元されていたものと考えられる。

### C期間：新油と再生油並行生産期間 1973年~1989年

検出事例：新油 15台

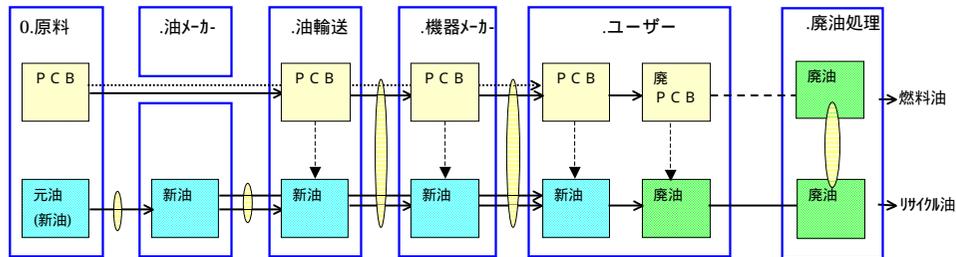


#### 【コメント】

- : 廃油排出者及び再生油メーカーは、元油となる廃油のP C B分析を実施していなかった。( )
- : 新油 & 再生油メーカーにおいて製油ライン・配管・原料油受入設備等 完全に分離されていなかった。( )
- : 新油 & 再生油メーカーは、油出荷時のP C B分析を実施していなかった。( )
- : 新油メーカーの一部は、他の新油 & 再生油メーカーの委託・購入品を販売していた。( )
- : 当社では、受け入れ時にP C B分析を実施していなかった。( )
- : 当社では再生油を使用していないため、混入の可能性はない。(×)
- : 当社では、出荷時にP C B分析を実施していなかった。( )
- : 業界内で混入があったと思われる事例あり。( )
- : 混入があったかは不明。
- : 混入があったとすると、再生油によるP C Bの二次的拡大汚染の要因となる。(推測： )

### B期間：P C Bと新油並行生産期間 1955年~1972年

検出事例：新油 62台

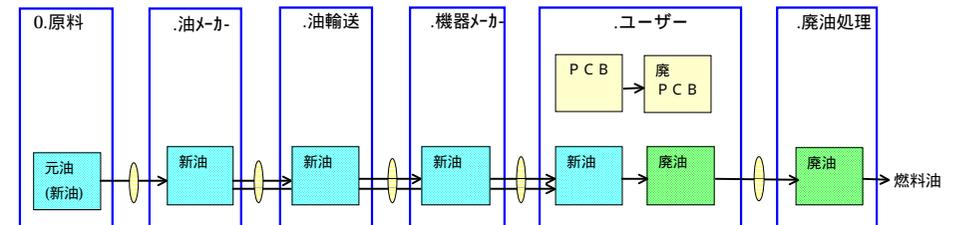


#### 【コメント】

- : P C B油は専用ドラム缶で納入(×)
- : 当社の製造工程はP C B油使用ラインと新油使用ラインとに完全分離されていた。(×)
- : 製造工程における人的作業ミスによるP C B混入の可能性は極めて低いながら、完全に否定し得ない。( )
- ~ : 混入があったかは不明
- : ここで混入があったとすると、廃油排出者及び再生油メーカーがP C B分析を行なっていないことから、微量P C B混入の一番大きな要因となり得る。(推測： )

### D期間：新油のみ使用生産期間 1990年~現在

検出事例：新油 0台



#### 【コメント】

1. 当社および油メーカーとも、定期的に油のP C B分析を実施するなど、品質管理強化を実施。
2. 1990年1月に再生油が製造中止された以降、微量P C Bの混入事例は殆ど無くなった。